



今回も事務局次長の寺澤さんが司会進行です

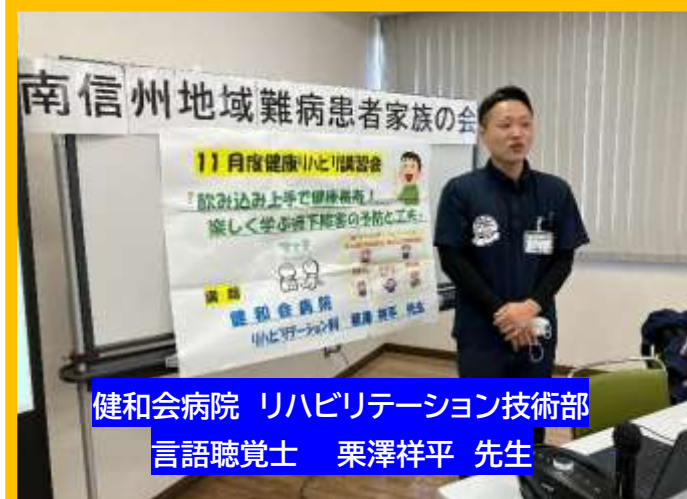
参加者14名でした



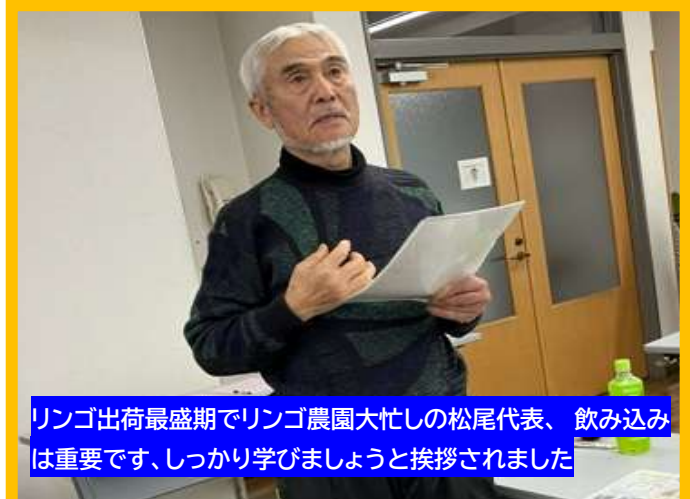
講師

健和会病院

リハビリテーション科 栗澤 祥平 先生



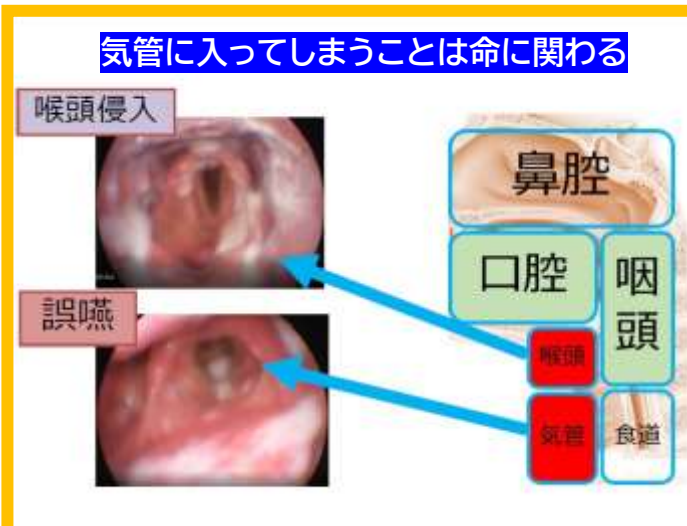
健和会病院 リハビリテーション技術部
言語聴覚士 栗澤祥平 先生



リンゴ出荷最盛期でリンゴ農園大忙しの松尾代表、飲み込みは重要です、しっかり学びましょうと挨拶されました



嚥下障害は命にかかわるので、まずは飲み込みのメカニズムに関して理解しましょう！



気管に入ってしまうことは命に関わる

喉頭侵入

誤嚥

鼻腔

口腔

咽頭

喉頭

気管

食道



実際の口の中を口腔咽頭部の動画で説明いただきました



これで3回目の参加、宮脇さん(マナくん)のホームページ「マナくんち」を紹介しました

前傾座位(まえかがみ)メリット

<メリット>

- いつもと同じ姿勢で行える
- 食事中は体幹が90度から少し前傾することが多い
- 食べ物を喉頭蓋で受け止めやすく、気管への誤嚥を防ぎやすい



嚥下するときの姿勢が大事

後傾座位のデメリット

<デメリット>

- のどに食べ物が残る場合は場合には誤嚥のリスクが高まる
- リクライニングの角度が低いと自力摂取できない
- リクライニングの角度によっては気管内にダイレクトに入る場合もある



透明咽喉モデルを使って後傾姿勢の危険性を説明、透明なのでよくわかります

完全側臥位とは

- 2007年に福村直毅医師により発見された摂食姿勢の一つ
- 座位摂取やG-UP30度の摂取が難しいケースの存在
- 重症例や座位保持が困難な場合も存在する
- 多数の論文が報告されておりエビデンスの高い治療手法



完全側臥位
完全に横を向いた姿勢



安全に食事するには



あごが上って、咽頭と気管が直線に近くなると誤嚥しやすくなります。

座位と完全側臥位



左図が座位、分かりにくいですが気管の周りに食物が残り、右図の側臥位は右に横になっていて右図下に食物があるので誤嚥リスクが低いです 矢印気管です

横を向いて食べるだけ



横を向いて食べると気管周辺に食物が残りにくく誤嚥リスクが低減します

